

この子らと

令和5年11月号

命輝く子ども

津波避難訓練

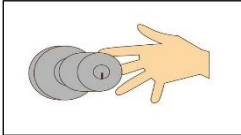


わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

子どもなりの最善を尽くす運動会



「子どもの心の扉の取っ手の『のぶ』は、子どもの心の内側についています。

子どもたちが心の扉を開いてくれると子どもたちは、心から躍動して感動的な運動会になります。

さて、当日、子どもたちが心の扉を開いてくれるか?本園職員も子どもたちの可能性を信じて必死で取り組んでいますので、こう、ご期待です!!!



【一生懸命は、感動の嵐】(児童文学 椋鳩十

つぶやき

早朝、ぱんだ組をのぞきますと登園している数人の子どもが「これから第8回わくわく鹿児島中央認定こども園運動会を始めます。園児代表●●,○○」と言って駆け足するという年長組代表のまねをする遊びを繰り返していました。(年少組でもできるんだ!!)

読書の秋(中国の漢詩に由来)

読書について、児童文学者椋鳩十先生は、次のようにお話しておられます。

「母が声を出して本を読んでやるといのは、きわめて大切なことである。



なぜなら、声の中には、必ず心があり、心をこめて読めば、やさしい母の声が子どもの心の中に入っていくのである。

さらに読む物語によって、あるときは物語の主人公に同情して涙を流し、あるときは、心の底から笑い、感動することを繰り返すことによって本当に懐かしい思い出とともに、母の声は、子どもの心にしっかり

と焼き付くのだ。この懐かしい母の声は、音をたてて子どもの心の中で鳴り続けるのである。

【母の声は、金の鈴の音】

職員による読み聞かせを

0歳児から実施しています。

【職員の声も金のすずの音】



秋晴れのもと「いもほり遠足」



鹿児島大学教育学部寺山自然教育施設の一角にある農園をお借りして芋ほり遠足を実施しています。施設内は、いも畑を森林・竹林が囲み、市内を一望できる高台にあり、子どもたちは、涼風を頬に受けながら、土や幼虫、土の中のさつまいもなど秋を全身で感じていたようです。

“入園説明会を実施しました”



入園説明会は、「在園児の保護者で弟・妹の入園を希望される皆さま、今後入園を希望される保護者の皆さま等」を対象としています。本園の方針、乳幼児教育・保育の方向、運営の在り方等を十分にご理解・納得の上、ファンとなっていただき本園を第一に選択していただきたいという願いをもって実施しています。(HPでも掲載しています。)

人生、出会うべき人には必ず出会う。しかも、一瞬遅すぎず、早からず。しかし、内に求める心なくば、眼前にその人ありといえども、縁は生じず。教育学者 森信三